

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	都市のスマートツーリズムにおける能力マネジメントに関する一考察 ：生態系の観点から
Title(English)	A Study on Capability Management for Smart Tourism of City from Ecological Systems Viewpoint
著者(和文)	林 采泳
Author(English)	Chaeyoung Lim
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第11332号, 授与年月日:2019年9月20日, 学位の種別:課程博士, 審査員:飯島 淳一,西條 美紀,藤井 晴行,妹尾 大,鍾 淑玲
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第11332号, Conferred date:2019/9/20, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Chaeyoung Lim		
論文審査 審査員		氏名	職名		氏名	職名
	主査	飯島淳一	教授	審査員	鍾 淑玲	准教授
	審査員	西條美紀	教授			
		藤井晴行	教授			
妹尾 大		教授				

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「A Study on Capability Management for Smart Tourism of City: from Ecological Systems Viewpoint (都市のスマートツーリズムにおける能力マネジメントに関する一考察：生態系の観点から)」と題し、都市のスマートツーリズムにおいて、どのような組織能力が必要であり、それをどのように評価し、どのように改善していくか、という組織能力マネジメントについて、生態系の観点から論じているもので、7章よりなっている。

第1章「Introduction (序論)」では、ツーリズムの定義について述べ、それが「スマート」であるとは、「ICT および最近のデジタル技術を効果的に利活用していること」であるとし、スマートツーリズムが注目を集めている背景について説明している。さらにまた、本論文の副題ともなっている生態系の観点から、スマートツーリズム生態系がどのように構成されているか、およびスマートツーリズムにおいて解決すべき問題点について説明し、本研究の研究課題が、1) 生態系の観点から、スマートツーリズムにおける組織能力、能力マネジメント及びマネジメントツールをどのように考えればよいか、2) ツーリズム生態系における多様な関係者に対して、スマートツーリズムを実践するシステムはどのようにデザインすればよいか、3) スマートツーリズムを自己生成的で持続可能なものとして進めるためのデザインは、どのように管理・推進すればよいか、の3点にあるとしている。

第2章「Conceptual Background (概念的背景)」では、スマートツーリズム及び生態系に関する既往の文献調査に基づいて、本研究のアプローチである、都市のスマートツーリズムにおける組織能力マネジメントを生態系の観点から考察するとはどのようなことであるかについて明らかにしている。

第3章「Methodological Background (方法論的背景)」では、本研究で採用しているデザイン科学アプローチおよび質的研究の方法論であるグラウンデッドセオリーアプローチについて、文献調査にもとづいて解説している。

第4章「Understanding Actions in Tourism Ecosystem (ツーリズム生態系における行為についての理解)」では、デザイン科学アプローチを、スマートツーリズムに適用した一つのケースとして、「デジタルおもてなし」プロジェクトをとりあげ、当該プロジェクトで開発した Eatjoy について、デザイン科学の観点から評価を行っている。

第5章「Exploring Capability in Tourism Ecosystem Management (ツーリズム生態系マネジメントにおける組織能力の精査)」では、生態系の観点から、都市のスマートツーリズムにおける組織能力はどのような側面から検討すべきか、という問題意識にもとづき、β市の幹部職員5名、同市への旅行者13名、および3名のツーリズム専門家を対象とするインタビュー調査を実施し、その結果に対して第3章で解説したグラウンデッドセオリーアプローチを適用することにより、6つの組織能力を抽出している。

第6章「Delivering Smart Tourism Management Framework for Practice (実践に向けたスマートツーリズムのマネジメントフレームワークの提案)」では、第5章で抽出した6つの組織能力を用いた成熟度フレームワークを、各組織能力における5段階の成熟度レベルの記述を与えることで明らかにしている。また、提案したフレームワークをβ市に適用することで、β市の現時点での各組織能力における成熟度がどのレベルにあるかを明らかにしている。

第7章「Conclusion (結論)」では、本研究の内容についてまとめるとともに、今後の課題について述べている。具体的には、複数の都市におけるスマートツーリズムの評価に、提案したフレームワークを適用することでベンチマークデータを収集すること及び、成熟度を評価した後に、それを改善するためには、どのようなことを実践 (Practices) すればよいか、またそれによってどのような成果 (Outcomes) が得られるか、そして、きちんと実践が行われているかどうかを測定するにはどうするか (Metrics) に関する提言集 (POMs) を開発することであるとしている。

以上、これを要するに本論文は、生態系の観点から、都市のスマートツーリズムにおいて、どのような組織能力が必要であり、それをどのように評価し、どのように改善していくか、という組織能力マネジメントについて、デザイン科学アプローチとグラウンデッドセオリーアプローチを用いて明らかにしたもので、学術上貢献するところが大きい。よって、博士 (学術) の学位論文として十分価値があるものと認める。

注意：「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。